

らぶらす

ライブラリーニュース Vol.7



女性によるエッセイを読む

～女性のさまざまな生き方・美意識・エネルギーにふれてみる

「らぶらすフェスタ」は楽しい企画が盛りだくさんのイベントです。今年は6月29日(日)に開催し、エッセイストの岸本葉子さんをお招きして講演会「ためない心の整理術」も予定されています。「こつこつ」や「そこそこ」、「ちょっと早め」といったタイトルからは、ご自身の体験をもとに日々のくらしが細やかに描かれるエッセイの雰囲気が伝わってきます。今号では、そのほかにも女性エッセイストの個性的な作品を集めてみました。時代や関心の向かう先の違いこそあれ、共通しているのは自立した女性たちからのメッセージ。新たな発見があること請け合いです。



6月1日かららぶらす10階特集本コーナーで、岸本葉子さんの著作を展示します。

『ためない心の整理術 もっとスッキリ暮らしたい』

岸本葉子 著
佼成出版社



現代はモノ・情報、そして人間関係も「ため込み」がちな時代。毎日を気持ちよく過ごしたいから、家や部屋の片づけと同じように心も8割収納を目指すという著者の伝える整理術。心をぎゅう詰めしないためには、日常をていねいに過ごす、心と体はひとつであることを意識する、人とゆるやかにつながる、言葉の力を大切にする、と語りかける。

『「こつこつ」と生きています』

岸本葉子 著
中央公論新社

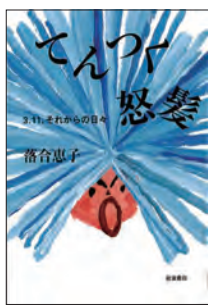


著者が2010年6月から始めたブログをもとに再編集したエッセイ集。「書くことを中心とした暮らし」のテーマでスタートしたはずが、執筆そのものではない話題が多くなり、「書くだけでは暮らしていけません」のような内容に「微妙に」スライドしていく。そのなかで一貫してエッセイによく出てくる言葉が「こつこつ」だった。



岸本さんの著作のいろいろ

[女性エッセイストが書いた本]



『てんつく怒髪 —3.11それからの日々』

落合 恵子 著
岩波書店



『ミラノ 霧の風景』

須賀 敦子 著
白水社



『聞く力—心をひらく35のヒント』

阿川 佐和子 著
文藝春秋



『負け犬の遠吠え』

酒井 順子 著
講談社

らぶらす
ホームページ



<http://www.laplace-setagaya.net>

利用案内

らぶらす資料コーナーへようこそ！

らぶらす資料コーナーでは、およそ1万9千点の書籍やDVD、行政資料などを所蔵しています。運転免許証や健康保険証など、住所とお名前が確認できる書類をお持ちいただければ、その場で利用者登録が可能です。1回につき3点まで、2週間の貸出が可能です(AV資料1週間まで)。

らぶらす開館時間

9:00-22:00

図書貸出時間

9:00-21:30

休館日毎月第3月曜日
(祝日の場合はその翌日)
及び年末年始



『子育てがプラスを生む
「逆転」仕事術』

仕事術

小室淑恵 著
朝日新聞出版

創業以来900社以上でワークライフバランスコンサルティングをしてきた著者が、2児の母として子育てはキャリアアップになり仕事にもプラスを生むというメッセージを伝える。職場や保育園、夫とのコミュニケーションを工夫すれば、驚くほど産休や復帰・両立がスムーズになると説く。自身の会社も全員残業禁止というだけに納得できる。



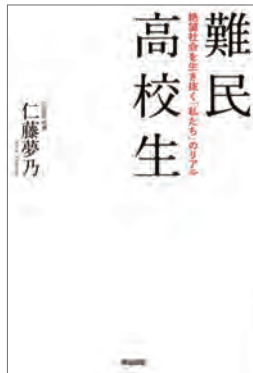
『人もお金も流れ込んでくる集客術
ファンクラブの作り方』

中村悦子 著 すばる舎リンケージ
「何を買うか」ではなく「誰から買うか」が重視され、お客を顧客ではなくファンと見る時代になる、と予測する新鮮な集客術論。



『考えながら走る
グローバルキャリアを磨く「五つの力」』

秋山ゆかり 著 早川書房
著者はまさにスーパーウーマン。徹底的に考え、自ら現場主義と言い切る行動力で逆境を乗り越える。働き続けるヒントが満載。



『難民高校生
絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』

生き抜く

仁藤夢乃 著
英治出版

家庭にも学校にも「居場所がない」と感じる“難民高校生”の問題は、人間関係や精神的・金銭的「溜め」がない貧困の状態(湯浅誠)に通じる。渋谷で“難民”だった著者は、高校中退後、数々の出会いや経験を通して「溜め」を手に入れる。地域・大人・若者が協働する「場」づくりを続けながら、当事者の目線で『私だからできること』を伝える。



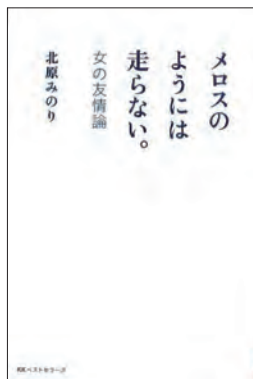
『母子避難、心の軌跡
家族で訴訟を決意するまで』

森松明希子 著 かもがわ出版
2011年の福島原発事故により、避難生活を余儀なくされた家族の手記。国相手の提訴を決意するまでの葛藤。



『生活保護で生きちゃおう!』

雨宮処凛、和久井みちる、さいまこ 著
あけび書房
生活保護は恥ではありません。国の社会保障制度の一つです。困っている方のためのわかりやすい手引書。



『メロスのように走らない。
女の友情論』

おんな・おとこ

北原みのり 著
KKベストセラーズ

「女の友情論」について、著者の実体験や過去の出来事を振り返ったときの気持ちが率直に表現されている。女友達と自分との間に存在する力関係、嫉妬や優越感、それに対する嫌悪感といった誰もが感じたことのある負の感情を素直にさらけ出す。一方、そんな女友達との語り合いによっていかに自分が救われてきたかにも言及している。



『「おネエことば」論』

クレア・マリィ 著 青土社
今やメディアで広く耳にする「おネエことば」。ルーツを含めたその正体が外国人の視点から明らかになる。



『男性論 ECCE HOMO』

ヤマザキマリ 文藝春秋
『テルマエロマエ』の作者が自身の半生も織り交ぜつつ、時間・空間を超えて、ボーダレスに男性の魅力を語り尽くす。

絵本

『うまれてきたんだよ』

内田麟太郎 文、味戸ケイコ 絵
解放出版社



虐待され笑うことも話することもなく、3歳で天に召された子どものつばやきが胸に迫る。どんな子どももうまれてきたことを祝福され、幸せになる権利はあるはずなのに。大人のための絵本。

コミックス

『あせるのはやめました』

森下えみこ 著
メディアファクトリー

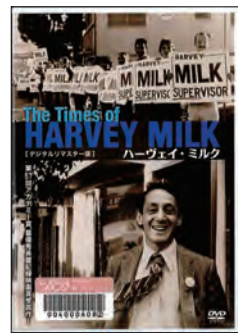


30代後半独身女性一人暮らし。若かりし頃のように結婚をあせるのはやめたけれども、決してあきらめてはいない。前向きだけど、マイペースな日々を綴る。

DVD

『ハーヴェイ・ミルク』

R・エプスタイン、R・シュミーセン監督
アメリカ 1984年制作



今ならあたりまえのことが闘わなければ手に入らなかった時代。セクシュアル・マイノリティの孤独を解放し、弱者の権利獲得を訴えて、人々の敬愛を受けたハーヴェイ・ミルクのドキュメンタリー。

貸出中の場合は予約ができます

